

ミニ展示

# しぜんしワークショップ

## 展 記録集

2015年12月20日(日)～2016年1月31日(日)

場所: 大阪市立自然史博物館 本館1F

●主催 大阪市立自然史博物館 ●協力 認定 非営利活動法人 大阪自然史センター・ちやめっこはくぶつかん



## はじめに

ミニ展示「しぜんしワークショップ展」によろこそ。毎月博物館で行われている「子どもワークショップ」は自然の魅力子どもたちに伝える活動として2004年からスタートし、今年で12年目になります。今回の展示は博物館と連携して活動している「認定 特定非営利活動法人 大阪自然史センター（以下、大阪自然史センター）」と「ちやめっこはくぶつかん」の2つのグループが行ってきたワークショップを小道具や成果品などで振り返りました。

また、懐かしいワークショップを思い返すだけでなく伝えるための工夫やアートワークも展示しました。博物館で実施したワークショップはさらに他の地域でも展開されてきました。そこで実施する上で、様々な工夫され変化の様子も展示しました。本書はその展示をまとめた記録集です。

# 私たちのワークショップ

私たちの「子どもワークショップ」は、たくさんあるプログラムの中で一番小さい人向けのプログラムです。展示に込められた学芸員のメッセージを届け、参加した人には受け取ったメッセージを家族や友達にも届けてもらえるよう内容を工夫しています。

学芸員と大阪自然史センターの教育スタッフが一緒になって作っているオリジナルのプログラムをいくつか紹介します。



## クジラ・スタンプラリー

はくぶつかんはクジラのホネだらけ！クジラをさがしてスタンプをあつめよう。ぜんぶあつめたら、どんなかたちになるかな？クジラの「マッコ」と「ナガスケ」が、みんなとあえるのをたのしみにしているよ。

開催場所  
時期

- 2007年4月 ●2011年4月 ●2012年4月5月 ●2013年4月
- 2014年5月 ●2015年5月 ※場所はいずれも大阪市立自然史博物館

ねらい  
内容

- クジラのホネを探しながら、博物館内の展示全体を見てもいいよ。  
来館者の多い時期に開催し、たくさんの親子に博物館の展示を見て回っていただく予定です。  
象徴的展示である2種類のクジラについて、パネルや標本も活用し紹介します。
- マッコウクジラの骨格標本の下で、遊び方のお話をします。
  - スタンプポイントは3箇所。1つ目は第2展示室に飾っている「クジラの化石」。
  - 化石を見つけた参加者にはスタンプを押し、スタッフが展示についてお話をします。
  - スタンプポイント2は、第3展示室にぶら下がった「ナガスケクジラの骨格標本」。
  - ゴールは、博物館の玄関に飾ってある巨大な「ナガスケクジラの骨格標本」。



ワークシ  
ョップで使っ  
たクジラのほねス  
タンプやスタンプカ  
ード、スタッフの帽子  
などを展示しま  
した。



ワークシ  
ョップで使っ  
た消しゴムねんど  
やアンモナイト型、  
そして実物のアンモ  
ナイト化石も展示  
しました。



## ぐるぐる消しゴムアンモナイト

特別展「大化石展」には、化石がいっぱいならんでいるよ。ぐるぐるしたかたちのアンモナイトにちゅうもく！化石をじっくり見たら、いろんなことがわかるんだって。ねりけしをコネコネして、アンモナイトの標本の型に入れて…。ポコッと出したら消しゴムのできあがり。

開催場所  
時期

- 2011年7月8日 大阪市立自然史博物館・特別展「大化石展」
- 2015年7月 梅田ハービスHALL(ゆめまちフェスティバル2015)
- 2015年8月 大阪市立野里小学校

ねらい  
内容

- たくさん情報がつまっている化石の不思議にふれ、アンモナイトの造形をじっくり楽しみます。レプリカに会い、博物館におけるレプリカの役割をお話して、レプリカで消しゴムをつります。
- コウガソウの展示を見ながら、レプリカの「いいところ」について話し合います。
  - アンモナイトの化石とレプリカをじっくり見て、同じ情報がつまっていることを確認します。
  - レプリカを使って、アンモナイト型の消しゴムをつります。
  - ゆであがったアンモナイト消しゴムと、型を見比べて皆で見せ合いっこをしました。



数多くあるワークショッププログラム。エッセンスをぎゅっとまとめて展示しました。





# ハカセと一緒に

プログラムによっては博物館の学芸員（ワークショップではハカセと呼びます）にも登場してもらいます。普段は見られない標本や、特別なお話も聞けるかも？

こうしたワークショップは、ハカセの得意なことや魅力が発揮されるよう工夫しており、子どもたちとハカセとの出会いの場になっています。



## おしえて! カラスはかせ

わたしたちのこと「ゴミをあらすイマイクナトリ」「人をおそうこわいトリ」と思っていない？ カラスはかせのお話をきいて本当のわたしを知ってほしいな。お話のあとは街の鳥をかきとめる「カラスてちょう」をつくろうね。

開催場所  
時期

●2014年8月 大阪市立自然史博物館

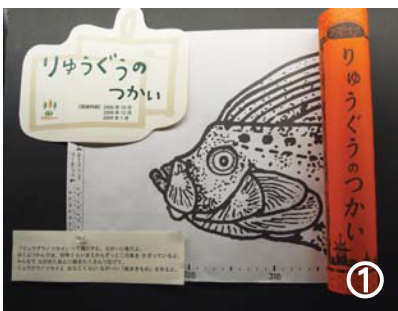
ねらい  
内容

- 特別展「都市の自然」のためのワークショップ。都市に暮らすカラスの生態を、カラスはかせ（大阪市立自然史博物館 学芸員）と一緒に考えます。剥製を見たり鳴き声を聴いたりしながら理解を深めます。家に帰ってからカラスのことを書きとめられる「カラスてちょう」を作りました。
- 大阪の街にぐらすハシボリガラスとハシボリカラスを、剥製・写真パネル・音声を使って比較。
  - 子育ての様子を紙芝居で紹介する。巣や卵の形、子育て方法についてお話します。
  - 展示室に出かけ、「カラスの食べ物」についての解説ツアー。小鳥や昆虫など展示を見ながらカラスが都市の中で多くの生き物を捕まえて食べていることを伝えます。
  - 知ったことや見たことを「カラスてちょう」に書き、まとめた内容をハカセにお披露目します。

ハカセの専門に合わせたスタッフ手作りの衣装も展示。手に取って見てもらえるようにしました。



ハカセのカラス衣装を着た見学者。



①



②



③

ハカセ

## ワークショップいろいろ



④

ハカセの数だけワークショップがある?! ハカセワークショップの一例と、登場する学芸員を紹介します。

- ①りゅうぐうのつかい (ハカセ: 動物研究室 石田学芸員ほか)
- ②びっくりに変態! むしむシ親子 (ハカセ: 昆虫研究室 初宿学芸員)
- ③実験! タネたねハカセ (ハカセ: 植物研究室 横川学芸員)
- ④くねくねタコ・イカ (ハカセ: 山西元館長ほか)
- ⑤ミツバチのおくりもの (ハカセ: 昆虫研究室 松本学芸員)



⑤

# 博物館を飛び出して

博物館で行われてきたワークショップを、まだ博物館に来ていない子どもたちにも届けたい。例えば長期入院する子どもがいる病院で、地域の公民館などで。そして博物館が、町が、東日本大震災で大きな被害を受けた東北へ。

子どもたちに自然のおもしろさを伝えるために博物館を飛び出したワークショップは、博物館の中で行うのとはまた違う、様々な工夫が必要になります。

人気プログラムのひとつである「きょうりゅうはりえ」は、博物館の外で行うことも多いワークショップです。それは「恐竜」という魅力的なテーマ、小さな子をはじめどんな年齢の人も親しみやすい「はりえ」という工作、そして特に三陸地域では、ワークショップを行う場所で発見された地域の宝である化石をモチーフに改良できる柔軟さがあるからです。

博物館を飛び出した先のすべての地域で恐竜が発見されているわけではありません。そんなときは「はりはりえ」と名前をかえて、魅力的な化石・アンモナイトやギョリュウなどをモチーフとしたワークショップを行っています。



## きょうりゅうはりえ

「きょうりゅう」って、どんな色をしていたの？はくぶつかんの大きなきょうりゅうの骨をながめてたら、自分の好きな色の紙をちぎってはりつけて… オリジナルの「きょうりゅうはりえ」をつくらう！

- 2005年2月 ● 2007年2月 ● 2008年5月 ● 2011年5月6月
  - 2011年9月～現在 〔東北編〕東北遠征スタート ● 2013年1月 〔東北編〕
  - 2013年5月6月 ● 2014年11月 大阪市立大学附属病院
  - 2014年2月 城東区民ホールフェスタ ● 2014年7月 大阪市立野里小学校
  - 2015年7月 大阪ハービスホール ゆめまちフェスティバル ● 2015年12月 福島区民センター
- ※場所の記入がないものは大阪市立自然史博物館で開催

開催場所  
時期

ねらい  
内容

- まだ説明されていないこと多い恐竜の皮膚の色について、恐竜ハカセになった気分自分なりに考えます。化石の不思議や魅力を伝え、恐竜について想像することを楽しみます。
- 恐竜が化石になるまでのお話を、紙芝居で紹介します。
  - 展示や化石を見てながら、恐竜の色について一緒に想像します。
  - はりえて、恐竜の色を表現します。



## 大きいはりえをみんなで

博物館の中で行う時は、ひとり1枚のはりえを作りますが、子どもたちの人数が多い学校などでは、みんなでひとつの大きなはりえを完成させることがあります。これは出張ワークショップを行うなかで生まれた工夫です。

完成した大きなはりえは、学校やその地域に置いていくため、今回は展示できませんでしたが、きっと参加してくれた子どもたちの思い出とともに大事にされていることでしょう。

「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」でのはりえワークショップ。  
いわき市好間第一小学校にて。  
いわき市から発見された「フタバサウルス」のはりえをする子どもたち。





# 「ちゃめっこはくぶつかん」

大阪自然史センターの初代教育スタッフの小島まみと、山中垂希子によるワークショップユニット。京都を中心に活動しています。自然史博物館や大阪自然史センターとも連携しながら新たな場所でのワークショップを開拓しています。



## カエルくらべっこ

ケロケロケロ… みんなが大すきなカエルたち。どうして、なくの？ どうやって、オタマジャクシからカエルにへんしんするの？ お話をききながら、4種類のカエルを、カードでくらべっこしてみよう。てぬぐいにスタンプをおして、カエルマップも作るよ。

開催場所  
時期

- 2013年2月 京都こどもみらい館 ●2014年1月2月 高槻市立自然博物館
- 2014年6月 京都こどもみらい館

ねらい  
内容

4種類のカエルカードを見ながら、名前や住むところ、食べ物や特徴などを見ていきます。カエルは山の方にいせ役で登場してもらったり資料館でカエルの生態展示を見ながら実施したり「カエル」という子どもたちの興味あるテーマを通して、自然や環境のことを一緒に考える機会です。

- カエルカードを見ながら、4種類のカエルをくらべっこします。
- それぞれの生態を紹介しながら、カエルの住んでいるところも考えます。
- オリジナルのカエルスタンプを押して、マップをつくらせます。山に住むカエル、田んぼに住むカエル… お話を思い出しながら、自由に制作します。



## くらべっこ! ドングリ

ほそながい、まるい、とげとげ…? ドングリハウスに入った5種類のドングリとぼうしをくらべっこ。かみしばいで、ドングリのヒミツを紹介するよ。さいごにドングリもようのスタンプで布バッグをつくらう!

開催場所  
時期

- 2011年10月 こどもアンダーカニバル京都 ●2011年10月 大阪市立自然史博物館
- 2012年10月 京都こどもみらい館 ●2013年11月 榛山チルドレンミュージアム
- 2014年10月11月 高槻市立自然博物館 ●2015年6月 阿波座南公園
- 2015年10月 京都ちっちゃなバーード

ねらい  
内容

子どもたちにとって身近な自然であるドングリを、じっくり見つけるプログラム。ドングリの春夏秋冬の様子や5種類のドングリの特徴や名前などを、標本や紙芝居で見えていきます。幼児向けにはあてこをメインに、小学向けには紙芝居と標本をメインにと、対象者と場によって調整ができる内容にしています。

- 紙芝居を見ながら、ドングリの春夏秋冬について紹介します。
- 5種類のドングリを見比べながら、イラストパネルとあてこを作ります。ぼうしや実の様子を見ていきます。
- オリジナルのドングリスタンプを押して、バッグをつくらせます。
- 完成したバッグを見せ合ったり、ドングリの授業や図鑑、資料を見ながらお話しします。



大阪市立自然史博物館で4歳児研究室の学芸員さんと一緒に実施しました。 (2014年)



## ボクはイノシシ

山にいるイノシシは、どんな暮らしをしているのでしょうか。ヒミツがつまったワークショップボックスや紙芝居で紹介します。さいごにオリジナルスタンプを押しましょう。あなたが心に残った場面はどこですか。どのスタンプを選びたいかならう?

開催場所  
時期

- 2011年7月 生田川水辺祭 ●2011年7月 榛山チルドレンミュージアム
- 2011年11月12月 高槻市立自然博物館 ●2012年1月 京都こどもみらい館
- 2012年7月 生田川水辺祭 ●2013年9月 京都こどもみらい館 ●2014年4月 生田川さくらまつり
- 2014年8月 神戸市立森林植物園 ●2014年9月 榛山チルドレンミュージアム
- 2015年4月 生田川さくらまつり ●2015年8月 神戸市立環境みらい館
- 2015年9月 神戸市立森林植物園 ●2015年10月 神戸市再度公園

ねらい  
内容

イノシシの専門家とつくったワークショップボックスをもとに展開するプログラムです。剥製や紙芝居を見ながら、イノシシの生態や素敵などと一緒に見つけます。神戸市での実施が多いのは、街においてイノシシへの興味関心が高いことが反映しているようです。

- イノシシの特徴や体つきを見ながら、山での暮らしを伝えます。
- スタンプを押して成果物をつくらせます。手元に残るイノシシの情報として、記念に持ち帰ってもいいです。





# ワークショップ研究会

教育プログラムとしてのワークショップについて、工夫や課題を話し合う「ワークショップ研究会」を開催しました。参加者全員で「しぜんしワークショップ展」を見学した後、車座になってそれぞれの現場で抱える悩みや問題点、その解決方法などの意見交換をしました。

各地で取り組まれているワークショップの試みをより良いものに改善していくためには、こうした現場スタッフの対話の場を持ち続けることが重要だと考えています。

## 1、まずはみんなで展示を見よう

それぞれの担当者が展示の解説をしました。



## 2、自由見学

ワークショップのキットを試してみたり、スタッフとのおしゃべりや質問にも花が咲きます。



## 3、ディスカッション

全員で参加動機や現場の実践例や疑問などを話し合いました。



受付方法は？

学芸員を巻き込むコツは？

歴史のワークショップ？

スタッフの交代と引き継ぎはどうしてる？

ワークショップの評価は？

参加費はいくら？

【日時】

平成28年1月9日（土）13:00～16:00

【スケジュール】

13:00～14:00 企画者による展示解説

14:00～16:00 ワークショップパー座談会

〈テーマ〉

「博物館の中と外でのワークショップ運営、それぞれの課題と工夫」

小島まみ（ちゃめつこはくぶつかん）

山中亜希子（大阪自然史センター）

（進行）佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸員）

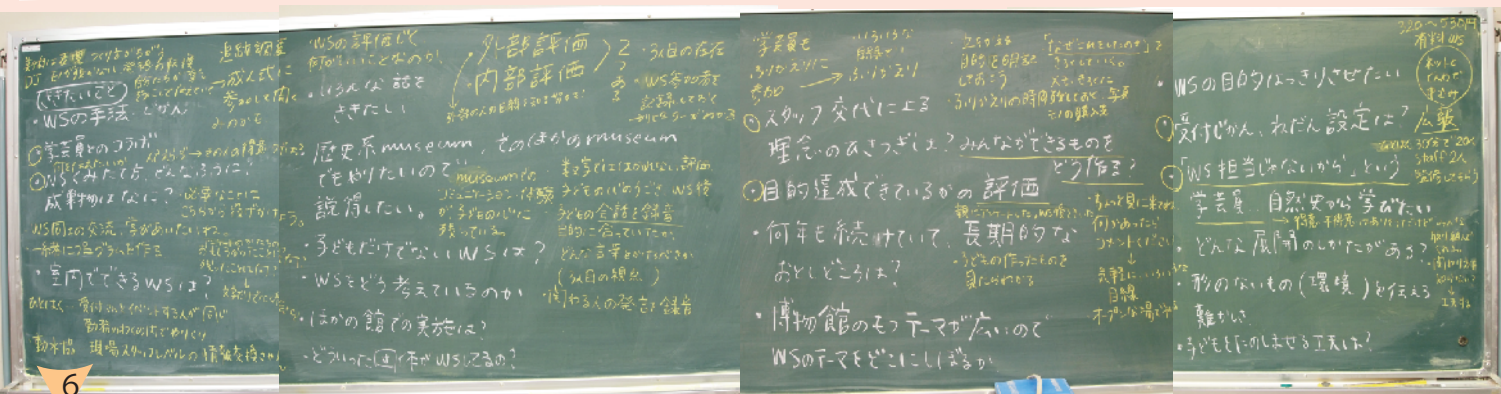
〈会場〉大阪市立自然史博物館 本館展示室、集会室

【参加人数】

35人



当日会場から出た様々な意見・疑問





## 自然史博物館の 子どもワークショップ

大阪にはたくさんの博物館や美術館があり、たくさんの方が学んでいます。美術館や歴史博物館と比べて、自然史博物館に特徴的なことは、子どもから大人まで幅広い人が学んでいること。これは動物園や科学館と似ています。

そうはいつでも博物館の展示は小さい人にもわかりやすい、簡単なものばかりではありません。

「どこに注目してみたらおもしろいかな？」と迷うこともあります。じっと見たらおもしろい発見があるはず、何かきっかけがほしいと思っている人は多いでしょう。

博物館の展示のおもしろさをもっと伝えたい、そんな思いから2004年にスタートしたのが「子どもワークショップ」です。子どもたちと博物館でしかできない学びを創り出そうと努力しています。



## 私たちが考える 「子どもワークショップ」

子どもワークショップはその名の通り、子どもたちに楽しんでいただけるように工夫されているプログラムですが、プログラムの間、実はスタッフや学芸員は後ろで見守るご家族にも一生懸命メッセージを送っています。子どもがおもしろがることは、実は大人にもおもしろい。大人も一緒に楽しさに気付いてもらえれば、帰ってから話をするお子さんのテンションはますます上がることでしょう。

博物館は子どもだけの場所ではありません。どんな人でも一生学びを追うことができる場所です。これからも、子どもたちに伝えながら大人のみなさんにもメッセージを送りたいと思います。

今回「ワークショップ展」として展示にしてみたことで、あらためてワークショップの持つ広がりの可能性を感じているところです。

これからもよろしくお願いします。







大阪自然史センターのワークショップスタッフ  
(2016年現在)

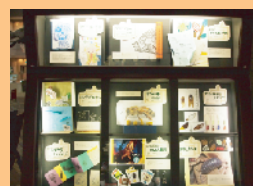


私たちと学芸員  
ほか多くのスタ  
ッフでワークシ  
ョップを作っ  
ています



ミニ展示「しぜんしワークショップ展」記録集  
文/佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）  
五月女草子（大阪自然史センター）  
イラスト/山中亜希子（大阪自然史センター）  
編著/佐久間大輔・大阪自然史センター  
ちゃめっこはくぶつかん  
制作/2016年3月 大阪市立自然史博物館

- 大阪市立自然史博物館  
[www.mus-nh.city.osaka.jp](http://www.mus-nh.city.osaka.jp)
- 大阪自然史センター  
[www.omnh.net/npo](http://www.omnh.net/npo)  
[center@mus-nh.city.osaka.jp](mailto:center@mus-nh.city.osaka.jp)
- ちゃめっこはくぶつかん  
[chameco.net](http://chameco.net)



- 【ミニ展示】「しぜんしワークショップ展」  
【会場】 大阪市東住吉区长居公園1-23  
大阪市立自然史博物館  
本館1階ナウマンホールおよび  
ミュージアムサービスセンター周辺  
【会期】 2015年12月20日（日）～2016年1月31日（日）  
【主催】 大阪市立自然史博物館  
【協力】 認定 特定非営利活動法人 大阪自然史センター  
ちゃめっこはくぶつかん  
【来場者数】 10,731人